

CHANGE
MAKERS

アクションキット

SHARE CARDS

-書き損じはがきを集めて命を守る検診を全ての人に！-

ACTION KIT

保健と衛生



資金調達



物資調達



自己行動変革



ボランティア



啓発活動



政策提言

医療格差 + 書き損じはがき =命を守る検診を提供

書き損じはがきを集めて換金して医療の機会を応援しよう！ SHARE CARDSでは、お家に眠っている書き損じはがきや未使用切手を集めて届けることで、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの支援地域の医療支援に繋がります。日本では、成長や健康の状況を確認する検診の機会が生まれてから何度もあります。世界中の子ども達が命を守る検診を受けられ、安心して過ごせるよう応援しよう！



世界では...

- ・6秒に1人、子どもが5歳の誕生日を迎えることなく命を落としています。
- ・死因のほとんどは、予防（治療）可能な、肺炎、下痢性疾患、マラリアなどです。

目標

2,500円=



命を守る検診を
1人の子どもに提供できる！



このキットは、アクションを起こすための基本的な4つのステップを踏みながら行動を起こせるようになっています。

仲間と一緒にアクションを起こせる内容ですが、1人でももちろん大丈夫！

私たちフリー・ザ・チルドレンも、1人の少年のアクションから始まりました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは

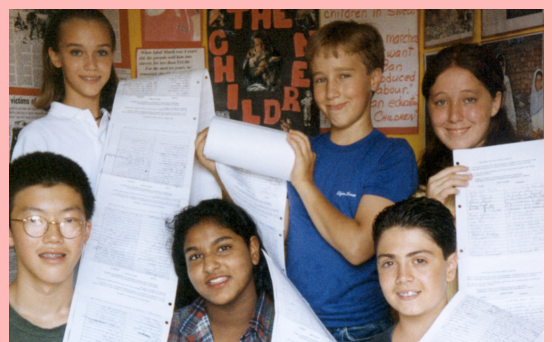
1995年、ひとりの12歳の少年クレイグから始まったフリー・ザ・チルドレン。「子どもになんか何もできないよ」「おとなになってからやれば」と、活動を始めた当初クレイグは周りからそう言われました。

でも、「子どもだって変化を起こせる。子どもだからこそできることがある。」と信じて活動を続けたところ、だんだん仲間が増え、これまでに45か国以上で390万人の子どもや若者が活動に参加し、その結果、開発途上国に1,500校以上の学校を建設しました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、この理念に共感し、1999年に活動を開始しました。

「子どもや若者は助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である」という理念のもと、子どもや若者が自分の持つ力を発揮して、より良い世界をめざし行動を起こせるよう環境づくりに取り組んでいます。

写真： クレイグ（上段中央）と一緒に活動を始めたクラスメイト



もくじ



ステップ1

問題やアクションに必要なことを調べよう！

- 03 ストーリーで知る「世界の子どもと医療」
- 04 数字で知る「世界の子どもと医療」、調べ学習のヒント
- 05 調べ学習まとめ
- 06 SHARE CARDS アクションの基本ステップ



ステップ2

目標を決めてアクションの計画を立てよう！

- 07 ゴールを決めよう／アクションのアイデアを出そう
- 08 必要なことを整理しよう
- 09 役割分担をしよう／危機管理を考えよう
- 10 スケジュールを確認しよう



ステップ3

TAKE ACTION! アクションを起こそう！

- 11 活動をやりきるアドバイス/活動する時に守ってほしいこと
- 12 活動中の記録を取ろう



ステップ4

アクションを振り返り、報告・お祝いしよう！

- 13 アクションを振り返り、報告・お祝いしよう！



ワークシート

- 14 ワークシート4種類



ステップ1 問題やアクションに必要なことを調べよう！

◆ストーリーで知る「世界の子どもと健康」

インドのラジャスタン州に小さな村で生まれた少年、ソハフのお話を読んでみよう。

ソハフは、大きな目で笑う笑顔が素敵な4歳の男の子です。彼の地元である、ラジャスタン州ウダイプールのベルナ村には、子どもとして生きていくために必要な環境が何も揃っておらず、ソハフと彼の友人は児童労働者になる危険にさらされていました。

ソハフは栄養失調で、か弱い子どもでした。体重は標準値以下で、治療を継続的に受けることもできませんでした。最寄りの病院は村から6キロも離れていたのです。



フリー・ザ・チルドレンが活動しているインドの地域の多くでは、アフガンワディと呼ばれる、保健所と幼児教育機関を兼ねた施設があります。それは政府が設置して資金も出している施設で、もともと児童の栄養不足を減らし、基本的な医療を提供するためのものでした。しかし、残念ながら、フリー・ザ・チルドレンが地域と共に活動してみると、これらの施設は退廃していて、地域の人々も自ら医療サービスを受けに行こうとしていないことがわかりました。そこで、自治体による施設を立て直すだけでなく、地域の人々と提供されているプログラムやサービスが再度つながり、関わりが促進されるように働きかけを行いました。

フリー・ザ・チルドレンの支援で、ベルナ村のアフガンワディが再建され、ソハフと彼の弟は就学前教育のプログラムに通えるようになりました。保健センターが併設されているので、定期的に受診もしています。また、そこで正しい手の洗い方なども学んでいます。保育園では、色や数字、文字を学び、キッチンガーデンでとれた野菜を使ったランチを食べています。また、フードサプリメントやビタミン剤、予防接種の支援も受けられるようになり、健康的に過ごせるようになりました。



コラム 日本の乳幼児健診

日本では、母子健康法により「1歳6か月」と「3歳」の健診は法的義務があります。これに追加して、1か月、3か月、6か月、9か月、5歳など、市町村によって異なりますが、5歳までにおよそ6-8回の乳幼児健診を、市町村の負担により無料で受けられます。この法的義務のある検診を受けないまま連絡が取れないと、虐待の可能性が疑われ、家庭への訪問調査が行われます。

また、乳幼児健診以外にも、保育園や幼稚園、学校でも健康診断は毎年実施されます。こうした検診を通じて、健康状態を確認することができるのです。



ワンポイント 健康確認だけじゃない検診の機会

検診の支援は、現在の健康状態の確認の場というだけではありません。

- ・検診
 - ・保健指導
 - ・駆虫薬（体内の寄生虫を駆除するための薬）の投与
 - ・衛生キット（石鹸、シャンプー、歯ブラシ、歯磨き粉など）の提供
- などを行い、健康的に安心して過ごせるよう、サポートしています。



◆数字で知る「世界の子どもと保健」

世界では...

- ・年間520万人の子どもが5歳の誕生日を迎えることなく命を落としています。
これは、6秒に1人、1日あたり約14,000人です。(UNICEF 2019)
- ・5歳未満児死亡率が世界中で最も高い地域は、サハラ以南のアフリカで、13人に1人の子ども達が命を落としている。日本の434人に1人と比べると、33倍も高い確率となっています。(UNICEF 2019)
- ・15億人以上の人々が、腸内寄生虫の治療の必要があると言われています。(WHO 2018)
- ・マラリアの2019年の感染者は約2億2900万人で、推計40万9,000人が死亡しています。
(WHO「世界マラリア報告書2020」*)
- ・2019年の世界の死因原因トップ10のうち、感染症疾患は、高所得国は1つ(下気道感染症)なのに対し、低所得国の場合は、6つ(新生児固有の状態、下気道感染症、下痢、マラリア、結核、HIV/AIDS)となっている。(WHO「The top 10 causes of death」2020.12 **)

*World malaria report 2020 <https://www.who.int/publications/i/item/9789240015791>

**The top 10 causes of death <https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/the-top-10-causes-of-death>



こうした状況に対して、
SDGs（持続可能な開発目標）では...



2030年までに、
新生児および5歳未満児の予防可能な死亡を根絶し、また、エイズ、結核、マラリアや熱帯病といった伝染病を根絶し、肝炎、水系感染症などの感染症に対処することを、ゴール3で掲げている。



ワンポイント 調べ学習参考サイト

SDGs

SDGs /国際連合広報センター https://www.un.org/ja/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

JAPAN SDGs Action Platform / 外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>

SDGs17目標と169ターゲット /UNICEF <https://www.unicef.or.jp/sdgs/target.html>

子どもの権利

子どもの権利条約 /フリー・ザ・チルドレン・ジャパン <https://ftcj.org/we-movement/childrights>

子どもの権利条約 /UNICEF https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html

保健

農村自立支援-保健- /フリー・ザ・チルドレン・ジャパン <https://ftcj.org/freethechildrenprogram/overseas/health>

世界の子ども達のストーリー（保健）/UNICEF https://www.unicef.or.jp/children/children_now/select.html?tag=hoken

◆調べ学習から何を学んだかな？

子どもが健康を害す原因は、生活のどんなところであるだろう？

感染症を防ぐために、できることはなんだろう？

医療にアクセスできない理由はなんだろう？

お金を集めるのではなく、書き損じはがきを集める活動は、参加する人達に対してどんな違いがあるだろう？この活動だからできる事はなんだろう？

SHARE CARDS アクションの基本ステップ

1. 書き損じはがきを集める

集められるものを確認する

書き損じはがきは、書き間違いや印刷ミス、買ったけど使っていない未投函のもの！

その他にも、未使用切手、商品券（図書カード、ビール券など）、未使用テレホンカードも寄付に繋がるよ！

書き損じはがきではない（集めても寄付にはならない）もの

- × 宛先不明で返送されたもの
- × 配達済でも消印が押されなかった年賀はがき
- × 切手の貼っていないもの
- × 額面部分が読み取れないほど汚れているもの
- × 使用済みの切手

書き損じはがきで寄付をする仕組み

書き損じはがきは、郵便局で所定の手数料を支払うことで、切手に交換することができるよ。

切手に変えた状態のものを寄付として活用できる！

※例）63円ハガキの場合：交換手数料5円を差し引いた58円が寄付になります。

その他の手数料は、郵便局のウェブサイトから確認できるよ。



<https://www.post.japanpost.jp/send/fee/kokunai/charge.html>

2. お金を寄付する

集まったハガキを、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンまで届ける

事務局に郵送 / 持ち込む

住所

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F

※持ち込む場合は、必ず事前に希望の日時を連絡して、その日で大丈夫なことが確認できてから来てね！

連絡先 info@ftcj.org 件名 「寄付持ち込みについて」 （受付：平日12時-19時）

※郵送する場合は、

- ①切手の値段ごとの枚数
 - ②寄付代表者の情報（名前/住所/所属/メールアドレス）
- を書いた紙を一緒に入れておいてね。

注意事項

- ・切手の値段ごとに分類して、それぞれの枚数を事前に数えておいてね。
- ・送料が別途かかるよ。事前に、送料分のお金はどう用意するか、考えておこう。



ステップ2 目標を決めてアクションの計画を立てよう

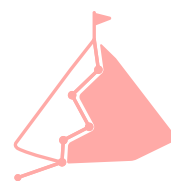
問題について学んだら、アクションのゴールを決めよう！2,500円で検診を1人に提供できる。何人に提供を目指すかは自分次第！医療の機会を応援するために挑戦してみよう！

アクションのゴール

- ・いつ、どれくらいの期間実施する？ [開始日] _____ [終了日] _____
- ・何人がこの活動に参加する？（メンバーの数） _____人 （提供者の数） _____人
- ・メンバー1人1人のゴールは？
（例：「1人10枚以上集める」「集めたハガキの換金金額1人1,000円以上」など）
 _____枚/円 （どちらかに○）
- ・グループで、
 _____枚（検診_____人分）を集める。

なぜならば...

なぜ、医療格差問題解決のために活動するのか、なぜ書き損じはがき回収活動を通じて行うのか、自分自身の理由を記しておこう！



◆はがきの集め方のアイデア（工夫すること）を考えよう

どこで・どうやって集める？個人で？グループ内で持ち合う？周囲に広く呼びかける？

興味を持ってもらえるように、こんな装飾をしてみよう！各教室を回って宣伝するときこんな声かけをしよう！など、思いついたアイデアは、どんどん書いておこう。



(アイディアメモ続き)

◆必要なことを整理しよう

アクションを起こす上で、味方になってくれる人/助けになってくれる組織は誰だろう？

友達、先生、家族、地域の政治家、NPO団体、企業など、考えられる人や組織を書き出そう。

その他、すべきことはなんだろう？必要な資材などは何があるだろう？

こと	もの	ひと



◆役割分担をしよう（グループで活動する場合）

行うことに対して担当する人（責任を持つ人）を決めておくと、円滑に活動ができるよ。

考えられる役割を書き出して担当者を決めよう。例えば、ポスターやチラシを作る、先生に許可を取る、集まったハガキを管理する、FTCJと連絡を取る、などなど、他にも様々な役割があるよ。

役割	担当する人

◆危機管理を考えよう

アクションを進めていくと、壁に直面することもある。事前に対応策を考えておくと、実際に何か起こった場合もスムーズに解決することができるよ。

例えば、目標の枚数が集まらなかったら、どうする？アクションの期間を延長する？他の方法で足りない分を集める？どんな方法で？「これだ！」という対応策を決めておこう。

考えられる困難	対応策

◆スケジュールを確認しよう

ゴール達成に向けて、いつ何を行うのか、計画を立てよう。大切な日付（アクションプランニングをしている今日、目標達成日、学校の行事などに合わせる場合すでに決まっている日程など）を先に書き、達成させるために必要な行動を書き埋めていこう。



ステップ3 TAKE ACTION! アクションを起こそう！

遂にアクションをおこすとき！

活動中の写真や現状を発信しよう。

SNSで発信する時は、ハッシュタグも忘れずに。

アクションが上手くいかず、モチベーションが下がってしまった時には、調べ学習で感じたことや、目標を立てた時の想いに立ち戻ろう。

～活動をやりにきるアドバイス～

- ・楽しさを取り入れよう。
例：ミーティングの最初にアイスブレイクゲームをしてみよう。
- ・活動の成果に途中途中で目を向けて、成果を実感していこう。
- ・お互いに頑張っていること、よかったことを言葉にして伝えよう。
- ・無理なく実施ができているか、時と場合に応じて計画は見直そう。

&楽しむことを忘れずに！



共通ハッシュタグ

#SHARECARDS_Action

#チェンジメーカーアクション

#FTCJ

活動する時に守ってほしいこと

1. 多様性を認め合い、年齢、人種、宗教・信条、民族性、障害、性的指向、外見を基準に差別や相手を傷つけるような言動・暴力はせず、それぞれの個性を尊重する。もし意図せず相手を傷つけてしまったら、立場に関係なく気持ちを込めて謝罪をする。
2. 熱中症や感染症対策、交通機関のルール確認、避難経路の確認など、健康や安全に配慮する。
メンバーの顔写真や名前などの個人情報を本人の許可なく無断でSNSに載せない。
3. 活動を通じて知り合ったおとなや子どもと、活動と無関係な理由で頻繁に電話やメールをしない。
困ったらすぐに先生やおとなに相談する。
※FTCJ相談窓口もあるので連絡してね。soudan@ftcj.org
4. 子どもとおとなは密室で2人きりにならない。
やむを得ない場合は窓やドアを開けて話し合いをしよう。
5. お金の貸し借りはしない。
活動にお金が必要な場合は、どのように集め・管理するかしっかりと話し合ってから決めよう。

※子どもの権利条約に従い、「子ども」とは18歳未満と定義しています。

18歳未満の子どもは、権利を持つ主体と位置付けられ、おとなと同様ひとりの人間として尊重し子どもの権利を保障するとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要と考えています。



◆活動中の記録を取ろう

次の活動につなげるためにも活動中に感じたことや成果は記録をしよう。

振り返り/ポートフォリオ用ワークシートもあらかじめ見ておこう！



ワンポイント

記録することをおさえておこう！

成果の記録

- ・ アクションを実施した期間（日数）
- ・ 設定した数値目標に対する結果（協力者数や成果の数値）

過程の記録

- ・ 成果を出すために、どのような行動を起こしたか。（簡単だったこと、難しかったこと）
- ・ 一番楽しかったこと、印象に残ったことはどんなことか。
- ・ 地域の人たちは活動に参加してくれたか。
- ・ 次回行うとしたら、改善したいことはなにか。
- ・ このアクションでどんな影響を与えることが出来たと思うか。

写真/映像 の記録

- 写真や動画を撮れる場合は、今後の活動や広報・報告に使えるよう、以下を記録しよう。
- ・ 活動中の様子（ミーティングや本番）
 - ・ 活動場所の様子、準備したもの、成果物
 - ・ 活動が掲載されたメディア（新聞記事など）

活動中に気づいたことを記録しておこう



ステップ4 アクションを振り返り、報告・お祝いをしよう！

アクションの実施おめでとう！

アクションを起したら、次に繋げるためのこの重要なステップに取り掛かりよう！

◆アクションを振り返ろう！ ワークシート

個人で・グループで、活動中に記録したメモを元に活動を振り返り、経験だけで終わらせず、“学び”にしよう。振り返りのワークシートを活用して、ポートフォリオとして保存し、今後活かしていこう。

◆アクションを報告しよう！

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに活動報告はしましたか？

みんなのアクションが集まれば、そのチカラはより大きくなる！忘れずに報告を送ろう！

-報告フォーム-

<https://ftcj.org/we-movement/westory>



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンに活動報告すると何があるの？

1. 毎年3月に開催しているイベント

Change Makers Fesに無料招待（25才以下）

国内外の社会課題に対してアクションを起した子ども・若者を無料招待し、その活動を祝い、発展に繋げるライブイベントChange Makers Fes（チェンジメーカー・フェス）を3月に開催しています！子どもや若者世代が主役となって誰一人取り残されない持続可能な社会をつくるムーブメントに、あなたも参加しませんか？

<https://ftcj.org/changemakersfes>



2. 毎年春に発刊される

「ソーシャルアクションレポート」への掲載

毎年、3月1日から翌年2月末までのアクションの報告をまとめたレポートを発行しています。

集まった報告から、寄付金額やボランティア時間の合計など、インパクトも発表しています。一緒に子ども若者のソーシャルアクションを日本で大きくしていきましょう！



3. 希望者には、活動証明証を発行（メールでデータでのお渡し）

活動証明証の発行が必要な場合は、活動報告フォーム内で申請を受け付けています。（報告には活動中の写真の提出必須。）

〔活動証明書希望入力欄〕

教職員の方がクラスを一括で申請の場合：

発行を希望する全員の名前のみ必要です →まとめて発行

その他グループや個人で活動して申請の場合：

発行を希望するメンバー全員の

名前・生年月日・メールアドレスが必要です →個人へ発行

◆アクションをお祝いしよう！

アクションの成功をお祝い・そして周囲に共有して、頑張った自分を称えよう！

- ・活動をまとめたポスターを作成して、掲示する
- ・活動中の写真や動画記録を作って学校のウェブサイトでも発信する
- ・活動を報告スピーチを全校集会やホームルームで行う
- ・活動をお祝いする賞状（活動終了証）を送る
- ・アクションをお祝いするイベント（報告会）を開く
- ・Change Makers Fesに参加する！

◆アクションを続けていこう！

SDGsを達成するためには、一人一人が継続してアクションを続けることがとても重要です。この成功体験を活かして、これからも活動を続けていこう！



ワークシート

切り離して使えるワークシートを用意しました！
必要な場合は、コピーをして繰り返し考えるのに使おう！

ワークシート①「アクションを振り返ろう！」

~SHARE CARDS ACTION KIT ワークシート~

☆アクションを振り返ろう！
振り返りシートフォーマット再掲シート

記入日： _____

名前： _____

取り組んだ社会問題 _____ 目標額 \$5005ゴール

なぜこの社会問題に取り組んだのか _____

実施したアクションの内容 _____ なぜこのアクションなのか _____

実施期間： _____ 費用的成果： _____

協力者： _____

支援先： _____

振り返り
目標達成に向けて、多々やり直したり工夫したりして、達成できたこと
困難だったこと、どう乗り越えたか、次回行おうとしたら、改善すること
このアクションを通じて、学んだこと

ワークシート②「活動修了証」

CHANGE MAKERS
アクトキッド

Congratulations!

SHARE CARDS ACTION KIT 活動修了証

殿

あなたは、チェンジメーカー・アクションキット“SHARE CARDS ACTION KIT”を活用し、
社会問題を学び、解決のためのアクションを考え、実行しました。
ご一緒に一連の活動を終了したことを記します。
引き続きソーシャルアクションを続けていきましょう！

活動期間： _____

取り組んだ社会問題： _____

達成したアクション： _____

一緒に活動したメンバーからの寄せ書き

Together we can change the world!

ワークシート③「チラシ/ポスター」

白枠のスペースに、仲間の募集や本の募集などの
情報を書いて、チラシやポスターとして活用しよう！

CHANGE MAKERS
アクトキッド

SHARE CARDS ACTION

医療格差 + 書き損じはがき
=命を守る検診を提供

FREE THE CHILDREN 特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
〒157-0052 東京都目黒区南品川6-6-5 3F | TEL 03-6321-8948 | Email info@frcj.org | HP http://frcj.org

ワークシート④「達成度チェックシート」

お金が集まったら、その分色を塗って、
目標達成度合いを確認するのに活用しよう！

CHANGE MAKERS
アクトキッド

SHARE CARDS ACTION

命を守る検診何人分を目標に近づける？印をつけてください。
お金が集まったら、その分色を塗って、目標達成に向けて現状を確認しよう！

1000円 2000円 3000円 4000円 5000円 6000円 7000円 8000円 9000円 10000円

もっと仲間を募集を頑張る、コピーをして使おう。



アクションを振り返ろう！

振り返り&ポートフォリオ用シート

記入日：_____

名前：_____

取り組んだ社会問題

-関係するSDGSゴール-

-なぜこの社会問題に取り組んだのか-

実施したアクションの内容

-なぜこのアクションなのか-

実施期間：

数値的成果：

◆お金の寄付：

◆物の寄付：

円

個

◆ボランティア時間：

◆インパクトを与えた人数：

時間

人

◆その他：

集めたハガキの数： 枚

ハガキを提供してくれた人数： 人

協力者：

支援先：

振り返り

-目標達成に向けて、あなたが/チームが工夫したこと、達成できたこと-

-困難だったこと、どう乗り越えたか、次回行うとしたら、改善すること-

-このアクションを通じて、学んだこと-

CHANGE
MAKERS

アクションキット

Congratulations!

SHARE CARDS ACTION KIT 活動修了証

殿

あなたは、チェンジメーカー・アクションキット"SHARE CARDS ACTION KIT"を活用し、
社会問題を学び、解決のためのアクションを考え・実行しました。

ここに一連の活動を終了したことを記します。

引き続きソーシャルアクションを続けていきましょう！

活動期間： _____

取り組んだ社会問題： _____

起したアクション： _____

一緒に活動したメンバーからの寄せ書き

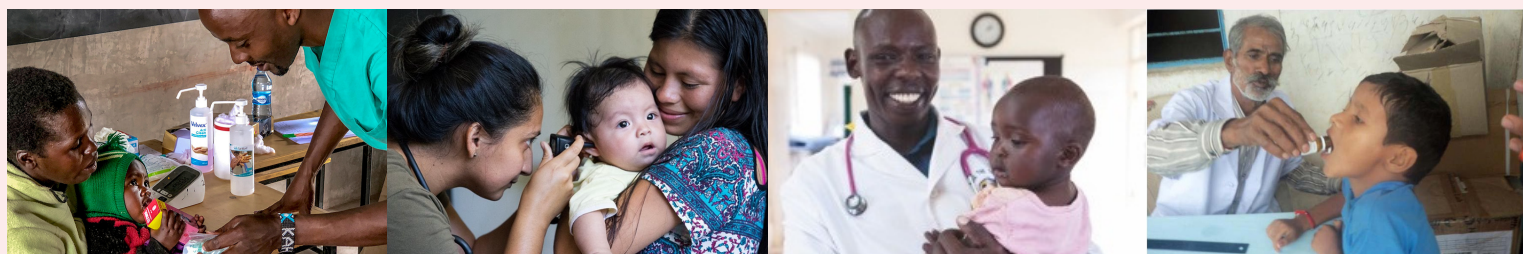
Together
we
can
change
the world!

CHANGE
MAKERS

アクションキット

SHARE CARDS ACTION

医療格差 + 書き損じはがき
= 命を守る検診を提供



FREE THE
CHILDREN

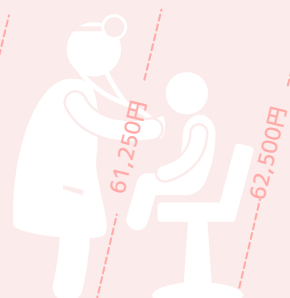
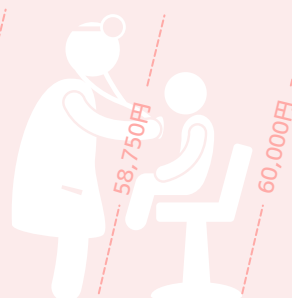
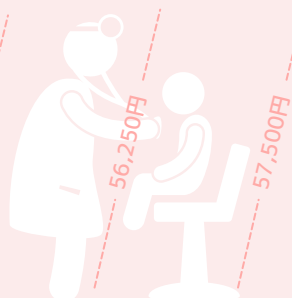
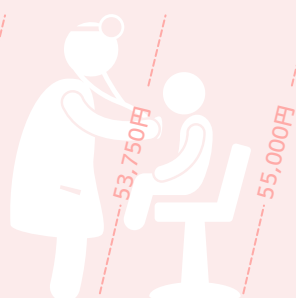
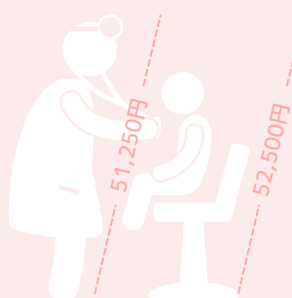
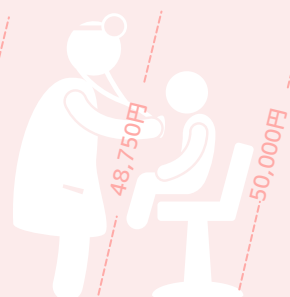
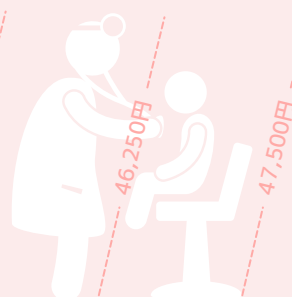
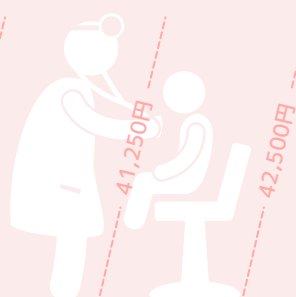
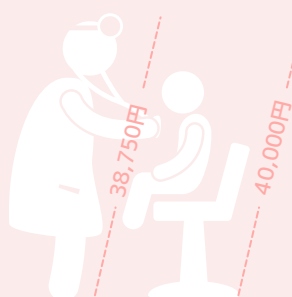
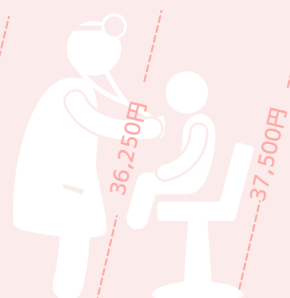
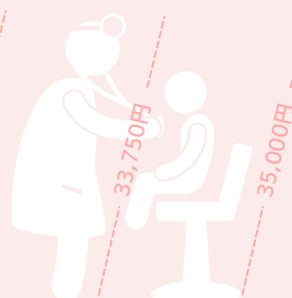
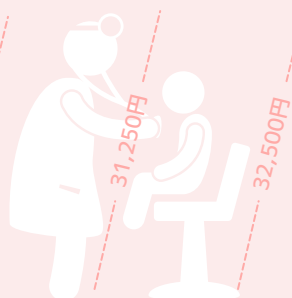
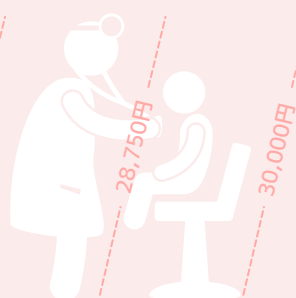
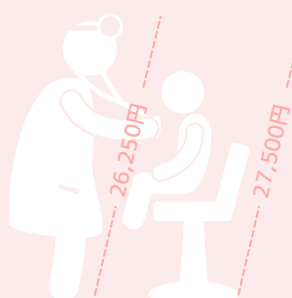
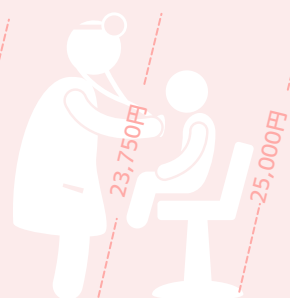
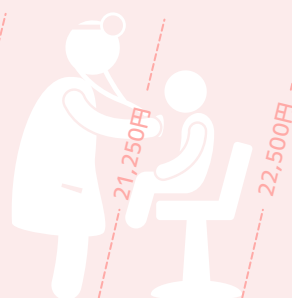
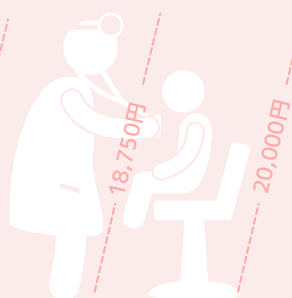
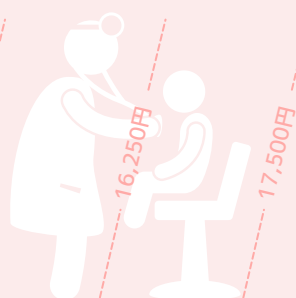
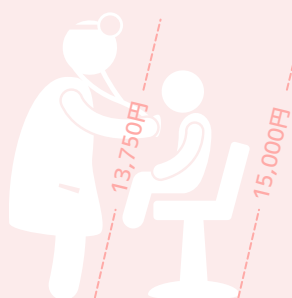
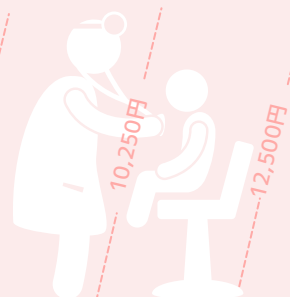
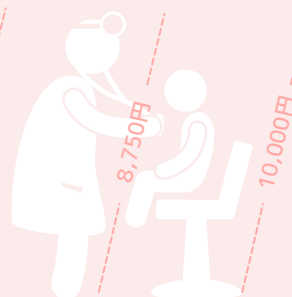
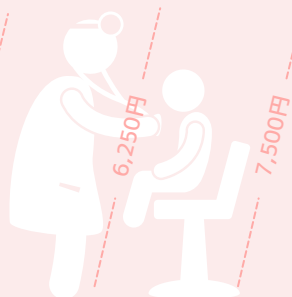
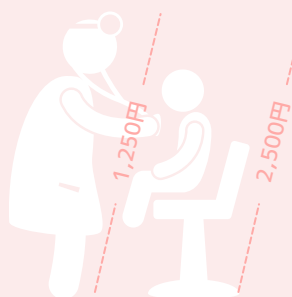
特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F | TEL 03-6321-8948 | Email info@ftcj.org | HP <http://ftcj.org>

SHARE CARDS ACTION

命を守る検診何人分を目標にする？印をつけておこう。

お金が集まったら、その分色塗って、目標達成に向けて現状を確認しよう！



FREE THE
CHILDREN

認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-6-5 3F
TEL 03-6321-8948 Email info@ftcj.org
HP <http://ftcj.org>

＼アクションキット以外もお探しの方はこちら！／

FTCチェンジメーカー教育プログラム



<https://ftcj.org/we-movement/changemakerseducationprogram>



4つのステップのサービスラーニングで社会問題を学ぶ・実践する・振り返る！

FTCチェンジメーカー教育プログラムは、子ども・若者一人ひとりが社会問題を自分ごととして捉え、問題解決に向けたアクションを起こせるようにフリー・ザ・チルドレンが開発したサービス・ラーニング（※）教育プログラムです。
※サービス・ラーニングとは、社会科教育学専門の筑波大学唐木清志教授によると、「地域社会の課題解決を目指した社会的活動（サービス活動）に子どもを積極的に関与させ、子どもの市民性（シティズンシップ）を発達させることをねらいとした1つの教育方法」を意味します。

新学習指導要領に則り、SDGsの達成、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンが目指す社会である「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、地域社会や国際社会の課題解決のための社会的活動を、4つのステップ+6つのアクションで実践することができるようデザインされています。

出前授業・講師派遣



<https://ftcj.org/we-movement/facilitator>



FTCチェンジメーカー教育プログラムの考えをベースに、出前授業を設計！

- ・「社会問題理解」+「アクションを考える」が基本の形。問題を知るだけでなく、自分とのつながりや地球規模で考え、個々人の特性を生かしたアクションへつなげます。
- ・「権利ベース」での社会問題の理解を深めます。“かわいそう”ではなく、同じ地球市民として国連が定めた「人権」「子どもの権利」から問題解決を探ります。
- ・SDGsの理解、オリパラ教育、世界全体の格差問題から、児童労働、貧困問題、医療の格差、環境破壊、差別、障害者理解など様々なワークショップ（参加型学習）の実施ができます。
- ・100種類近くあるプログラムから対象者・学習目的に合わせて授業内容を提案します。

メンバー登録・メルマガ登録

無料のメンバー登録、月2回のメルマガ配信

<https://ftcj.org/we-movement/we-channel>



-助成-



このアクションキットは、「大東建託グループみらい基金」のご支援によって作成することができました。
誠にありがとうございます。



Together
we
can
change
the world!